

## 平成28年度学校運営連絡協議会実施報告書

### 1 組織

- (1) 名称：東京都立青山高等学校 学校運営連絡協議会
- (2) 事務局構成：副校長、経営企画室長、広報部主任
- (3) 内部委員構成：校長、副校長、経営企画室長、教務部主任、生徒部主任、進路部主任、広報部主任
- (4) 協議委員構成：外部有識者2名、前校長、同窓会代表、後援会代表、保護者代表、渋谷区教育委員会、近隣中学校長、地域有識者

### 2 平成28年度学校運営連絡協議会の概要

#### (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）

第1回 平成28年 6月11日（土）  内部委員7名、協議委員7名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業公開、委員紹介、学校経営報告及び学校経営計画の説明、本校の教育活動の説明</li> <li>・進学指導重点校としての進路指導に関する説明</li> <li>・学校運営連絡協議会実施報告及び学校運営連絡協議会の趣旨説明</li> <li>・評価委員選出、質疑応答及び意見交換</li> </ul>
第2回 平成28年11月19日（土）  内部委員7名、協議委員8名、各学年主任、東部学校経営支援センター担当課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業公開、教育活動の状況報告</li> <li>・学校評価アンケート試案の検討（全体構成、改善点、設問の検討）</li> <li>・質疑応答及び意見交換</li> </ul>
第3回 平成29年 2月 4日（土）  内部委員7名、協議委員7名、各学年主任	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業公開、教育活動の状況報告</li> <li>・学校評価アンケート集計結果の報告</li> <li>・集計結果を踏まえた協議（分析と考察）、意見交換</li> </ul>

#### (2) 評価委員会

第1回 平成28年11月19日（土）  内部委員2名、協議委員2名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価の基本方針の確認、学校評価の観点・項目、内容の検討</li> </ul>
第2回 平成29年 2月 4日（土）  内部委員2名、協議委員2名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価アンケート集計結果の分析・考察、意見交換</li> </ul>

### 3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

#### (1) 評価の項目

- ア 生徒： 本人の学校生活と家庭生活、学校の教育活動
- イ 保護者： 子供の学校生活と家庭生活、学校の教育活動
- ウ 教職員： 進学指導重点校としての教育活動

#### (2) アンケート調査の実施時期、対象、規模

- ・実施時期： 平成28年12月上旬から平成29年1月末までの間
- ・対象・規模： 生徒891人、保護者890人、教職員58人
- ・回答率： 生徒96%（855人）、保護者62%（555人）、教職員100%（58人）

### (3) 評価結果の概要

- ・青山高校志望の際に重視した点  
生徒、保護者共、進学実績が第一
- ・部活動加入率  
1年生は97%、2年生は88%
- ・塾や予備校へ通学していない生徒  
1年生は85%、2年生は65%、3年生は26%
- ・不読率（1か月の間に1冊も本を読まなかった生徒の割合）  
1年生は23%、2年生は28%、3年生は42%
- ・自習室は、学習活動の充実に役立っていると思う生徒  
1年生は85%、2年生は84%、3年生は81%
- ・「挨拶をしている」と回答した生徒は94%
- ・「心身の悩みについて、相談しやすい」と回答した生徒は72%
- ・冷房機器・体育館の照明等の設備をもっと充実してほしいという要望多数

### (4) 評価結果の分析・考察

- ・保護者の回答率は昨年度より7ポイント向上したが、教職員や生徒と比較して低い割合にとどまっていることから、ITを活用するなどの工夫を行い、より高めていくことが課題である。
- ・青山高校を志望する際に重視した点は、生徒、保護者共に「進学実績」であり、外苑祭や部活動については、教職員が考えるほど、生徒・保護者は重視していないことが明らかになった。
- ・塾や予備校に通わない生徒の割合が高く、また、自習室が学習活動の充実に役立っているという回答した生徒の割合も高いことから、学習環境の整備が重要であることが裏付けられた。
- ・十分に読書に親しんでいるとは言えない状況であり、司書と連携し、生徒の読書意欲を高めることが課題である。
- ・挨拶をしない生徒が6%、相談しやすいとは思わない生徒が28%もおり、挨拶運動やスクールカウンセラーを活用した生徒相談体制の一層の充実を図ることが課題である。

## 4 学校運営連絡協議会の成果と課題

### (1) 成果

- ・本校を志望する理由の変化など、実態を的確に把握することができた。
- ・改善すべき課題が明らかになり、改善策の検討に結び付けることができた。
- ・地域や保護者へ教育活動に関する取組を発信することができた。

### (2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかになった課題

- ・進学実績の向上に資するよう、教育環境の一層の整備を図ること
- ・特別活動や授業等での学校図書館の活用と、読書活動を促進すること
- ・生徒の心身の悩みの解決に資するよう、教育相談等を一層充実すること

## 5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

- (1) 5階教室等の個別冷房化・グラウンド側溝改修・体育館照明交換・自習室整備等の教育環境の整備を一層推進する。
- (2) アクティブラーニング等による深い学びを実現し、ICT等も活用した授業改善に取り組んで、進学実績の一層の向上を目指す。
- (3) 司書と連携し、ビブリオバトル等の学校行事や、国語や社会、保健体育等の授業での活用をとおして、生徒の読書意欲を高めていくことが課題である。
- (4) スクールカウンセラーや特別支援学校の特別支援教育コーディネーターと連携し、いじめ対策委員会や特別支援委員会を定期的開催するとともに、企画調整会議や学年会等において生徒情報を詳細に共有するなどして、いじめの未然防止や生徒の心身の健康の増進を図る。

6 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合 9名回答

そう思う	多少 そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう 思わない	分からない	無回答
6	2	0	0	1	0	0

【自由記述】

- ・生徒一人一人の能力を十分に伸ばすことができている。
- ・教員のコミュニケーションが最も強力な力になると考える。
- ・教員の質が高い。
- ・青山高校のように成熟した学校では、一年のうちに顕著な改善を示し得る事項は多くないため、「よくなったか」という質問には「多少そう思う」と回答することになる。ただし、学校の経営の観点からは老朽化した設備の更新が平成28年度から行われるようになるなど、予算獲得の面も含めて十分な取り組みがなされている。今後は、目指すべき青山高校の姿について在校生と教職員が一層理解を共有し、目標に向けて様々な取り組みがなされることを期待する。
- ・学運協の資料を見て、正直がっかりした。学校評価は経年変化を見るために、原則質問事項は変えず、必要に応じて追加してきた。また、青山高校がより発展していくためには、どのようなことが必要かを問う自由記述は、生徒・保護者・教員の本音を知る貴重なもので、校長としては、耳の痛い意見もあるが、それを包み隠さずに学運協に出し、意見をもらうということが大事だと思う。前校長は、職員会議にも資料として出してきた。今年度は、校長として学校経営に誠意が感じられない。自由記述は多くて副校長は大変だが、これまではすべて手入力してきた。自動読み取りがないというのは言い訳にすぎない。年度内に委員に配布してもらいたい。
- ・校長の式辞について、全て英語で話されているようだが、中には理解しきれない生徒や教員がいるのではないかと。そんな保護者の声も聞いている。過日、この件で校長に話をしたが、「理解できる者だけ分かればよい」というような返事に驚かされた。校長式辞は、その場にいる生徒や教員にも聞いてもらう校長からのメッセージである。理解できない者がいてもよいという校長の姿勢は経営者・教育者としていかがなものか。トランプ大統領の演説に対して、各新聞社の記者の訳し方・捉え方も様々だった。日本語で話してもその意図が十分に伝わらないこともある。ましてや英語ならなおさらだ。生徒がどう捉えているのか、そんな声も聞いてみたい。校長は、固い意思を持って経営に当たることが必要だが、柔軟に良いものを、他者からの意見を取り入れる、しなやかさも必要だと思う。青山高校をより発展していったほしいとの思いで敢えて厳しいことを書かせてもらった。
- ・29年度の入学式の校長式辞は、日本語でやってもらいたい。

【その他のご意見】

- ・冷房設備の整備計画等が進んでいることを知り、要望書を提出してよかった。
- ・青山まつりなど地域のイベントでは、大変よく頑張ってくれている。
- ・マフラータオルをリニューアルしたというが、なぜデザインを変えたのか。
- ・第1回学校運営連絡協議会に、各学年主任が出席していなかった。学校経営に携わる意識を教員にもたせるために、協議会への出席が重要だ。前校長のやり方をこの一年間は変えるべきではない。一年間は前年度と同様に行い、変えていくなら、29年度からとすべきだ。
- ・2学年（29年度3学年）は1学級増の320名の学年である。進学実績の目標数値に、このことが考慮されているのか。校長としてどのような考えなのかを問う。
- ・異動させるべき教員を異動させなかったり、大きな功績のある教員を異動させたりするなど、校長の人事方針に異議がある。
- ・入学式、卒業式の来賓紹介は、学校運営連絡協議会の委員である場合は、その旨、きちんと紹介すべきだ。

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】職員会議0回、企画調整会議0回

【成果】参加実績がないため、特になし